

第五章 都市計畫による都市振興讀本

——或市長に贈れる——

第一節 概 論

一、都市の興亡

一體都市なんかにも盛衰があるのでせうか。

若し「ある」とすれば、都市に生活の根據を有つものにとつてこんな不安な事はありません。

而して事實は何人も知る如く矢つ張り盛衰があるのだから油斷がありません。

徳川時代に、街道の花と咲きほこつた東海道の各驛が、今は見る影もないものになり果てた話は誰でも知つてゐる事です。

川崎、八幡が二、三十年の間に十倍以上の人口になつてしまつた事も皆様御承知。

然しそう云ふ例は餘りハッキリしすぎて居りますが、例へそ迄はつきりしないでもヨク人間がどうも身體の調子が悪るとか好いと云つてゐる中にひどい病氣になつてしまつてゐる様

な事がある様に、一つの都市が何となく活氣があつたり近頃どうも不景氣でと云ふ様な事があ
ります。

それが世間一般の景氣に支配されてそうなら問題はありませんが、世間の景氣と關係なく沈
滞してゐる事がある。

是はその都市に老衰が近づいて來たので是を放つて置くとは何處迄變な事になるか解りませ
ん。

決して此の場合いつか何とかなるさ等と高をくゞつてはなりません。

取りかへしのつかない事になるかも知れないからです。

そこで年よりがよく血壓が低いとか高いとか心配する様に都市にも健康診断が必要となるわ
けです。

二、都力推定

都市の健康診断の方法については未だ好い研究も出來て居ない様であります、私は私丈の
考へで一つの方法を有つて居ります。

まあ、それで計つて見て今迄大過ない様ですから御傳授申上げませう。

これもクドクド申上げて居りますと時間がかゝりますから先ず表示して御眼にかけませう。

都力測定指數

生産指數

生産率 生産額人口一人當 標準二〇〇圓

人口増加率 標準 年二%

消費指數

商業率 商店街最高 地價人口一人當り 標準五厘

或は 油煙汚濁 〇〇人口

歡興率 藝、娯給、計人口千人當り 標準五人

燈率 電燈人口一人當り 標準〇、九燈

蓄積指數

稅率 直接國稅人口一人當り 標準 五圓

貯金率 郵便貯金人口一人當り 七〇圓

その町の力を生産力と消費力と蓄積力との三つに分けます。

此の三つの力は必ずしも比例するとはさまりません。

独自の角度からその都市の力を示します。

生産力はその都市の總生産額を人口で除した生産率と、人口増加率と二つ併せて計ります。

生産率丈で好き相なものがこれが頗る曖昧な場合が多い。

又増加率丈でも相當生産力を顯はすのでありますが、これも獨立には使へません。

町村併合その他の理由で増へてゐる事があります。

此の二つは必ず併用す可きであります。

それからその都市の状態が健全な場合、此の二つの數字は約

$$\frac{\text{生産率}}{\text{人口増加率}} = 100$$

となつて居る様です。

生産率の高い事はその町に活氣がある事を意味しますが、それは必ずしもその町に金が落ちてゐる事を意味すると限りません。

金は蓄積乃至消費の形式で落ちます。

消費指數は商品的なものや飲食、觀物と云つた様な歡興的なものと二つに分かれます。

此も相互に必ずしも深い關係があるとは申されません。

そこで此れを併用する事が出来ないの、自分はその吟味指數として、燈の數を使ひます。夫々に併せて用ひます。

此の中商品的な方は、地價で表はれませんが此が人口一人當り五厘と云ふ標準で大體見當づける事が出来ませんが、人口指數の方が一般的な様な氣もします。

蓄積指數については夫々適當なものもありませんので國稅一人當りを用ひてゐるのです。

それから此れ等の指數は必ずしもベストであると思つては居りませんが、たゞ得易いものだからあげた丈であります。

此等の數字は都市年鑑さへ見れば大體地價を除いて皆手に入ります。

三、國土計畫との關係

さて以上の測定標準で都市の力を測りますと大體何かと病態が解ります。

例へばこゝに甲乙丙の都市があるとして。

生産率	甲	乙	丙	丁
	一〇〇	六〇〇	一〇〇	一〇〇〇

人口増加率	一%	五%	一%	一%
商業率	二厘	五厘	七厘	一厘
歡興率	五人	一〇人	一〇人	二人
稅率	三圓	八圓	九圓	三圓
貯金率	二〇圓	七〇圓	七〇圓	二〇圓

甲の様な都市はそのまゝには住めません。

そして若しその都市に觀光的な材料でもなかつたら、工業振興を無理にもやらなければ衰滅する虞のある都市です。

乙は隆々として天日の如き都市であります。

丙は若しその近所に工業都市でもあるのでなかつたら恐らく城下町か何かで有福な町でせう。(例、金澤仙臺等)

そして若し此れが近所の都市の工業力の反映によるのでなかつたらやがていつか甲同様の形になる虞がある都市です。

丁は逆に恐ろしい勢で伸びてゐる新興都市の形ですが、此は工業に餘りに專一であり過ぎた爲

吸收能力たる消費が育たなかつた形であります。決して見かけ程幸福な都市ではありません。

(例 川崎、八幡)

さてこふやつて測定してみると、大體病狀乃至處法が解つて參ります。

そこで振興策となる譯でありますが、此が近頃の國土計畫で少し前と變つて來るのではないかと思はれます。

即、國土計畫のなかつた頃は、都市振興は可成り難かしい問題でありました。

可成り無理をして、やつてそれで必ずしも實效が上るとはきまりませんでした。

それは東京、大阪、名古屋、北九州と云つた様な強力な都市があるので、どうしても地方の中小都市はその殘飯以上を貰ふわけに行かなかつたからです。

然るに國土計畫は此の四つの強力な都市その他、大都市に人口なり生産が偏るのを防ぐ事を第一次の仕事とします。

出來れば此れを粉細して地方の不景氣な小都市や農村にバラ撒き度い。

それが國力から云つても、國民體位から云つても國防から云つても好いことでもあります。

従つて國家はあらゆる政策を以つて地方都市の振興を誘導する。

従つて地方の小都市は今度は初めから御客さんであつて御馳走は眼の前にある。

そして此れをたべることが國策なのだから問題はありません。

たやすく、實效が大きいのがだから全く海路の日和です。

尤、此は獨逸の様な強力體制下の國土計畫だと、口さへ開いてればポタモチがひとり手に入つて來るわけですが日本の國土計畫はそこまでは參りません。

そこに奮發する都市としない都市との差を起し易いのです。

つまり棚の上にポタモチはあるが背伸をして採る丈の條件があるわけです。

第二節 都市振興策種々相

さて以上の様なわけで特に中小都市は振興策を講じなければなりません。

又その可能な時代が參りました。

又、例へ大都市でもそれが眞の振興状態でないものは直さなければなりません。

そんな、こんなでいろんな振興策が考へられるわけです。

都市の振興策にどんなものがあるか、例によつて話を簡單にする爲に先づ表示致しませう。

都市振興策

イ、政治、軍事、文教等の施設の増強

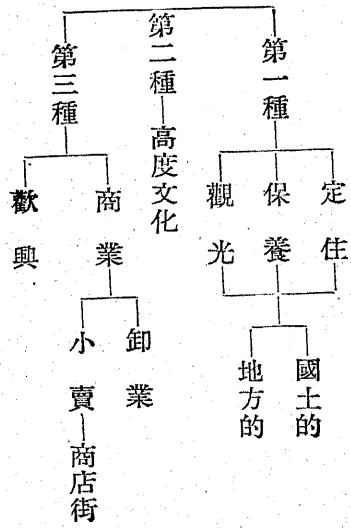
ロ、生産振興

自市工業

圈内(十五軒)農業

圈内工業

ハ、消費整備



ニ、交通整備

但し地方的乃至國土のもの

都市は大體こんな様なものを基因として盛衰して居る様であります。

振興策も自から此等による事になります。

而してその中イ、は大した難かしいものではない。

此はそう云つた様なものを誘致する事で努力を惜しみさへしなければ何とか出来ます。

又努力しても仕方のない事もある。

又最後の交通整備の問題は之は港灣を造るとか鐵道終端にするとかの問題で、此れも大效ある事に議論はありませんが、たゞ、どんな場合にも何とかなると云ふわけでもなし又誘引策と云つても大してむづかしい問題ではありません。

私がこゝで皆様に御話し度いのはロ、とハ、の問題です。

ロ、では自市工業の誘發、ハ、では觀光計畫、商店街計畫、歡興中心計畫等について申上度いと思ふのであります。

結局御話しを分けて

工場誘致法

都市美計畫

盛り場計畫

と致します。

第三節 工場誘致法

振興策の第一次は工場誘致であります。

一、誘致の必要な場合

尤、之は

イ、自市工業が生産率人口當り六〇〇圓以上ある場合

ロ、自市工業は二〇〇圓位でも隣接都市(三〇軒圈内)が工業的に強力であり(六〇〇圓以上)自市の消費條件好く、その隣接工業都市が既に消費的の適性格を缺いてる時

等の場合は、工業誘致の必要はない。

そうした場合は、むしろ此の次申上げる都市美計畫に直進す可きであります。

然し、そうでなく

イ、自市は工業力二〇〇圓以下であり、隣接工業都市なく

ロ、隣接工業都市あつても自市に消費條件なき時

どうしても工場誘致をしなければならぬ。之は必至であります。

二、誘致方法

工業發生條件

自然環境(濕度、空氣等の)

消費地に近き事

資源地に近き事

媒材の所在地に近き事(電力、水、石炭等)

勞働地に近き事(質及量)

之は一般に工業立地條件と云はれてるもので、私に云はせると工業發生の「地方」を決定する條件であります。

然し之等の條件も國土計畫や時代の推移で大分變つて参ります。

又此の基礎條件が當つて居りましても同じ様な土地か無限に擴がつて居る場合は、その様な「地方」のどこに工場が来るかは「誘致」が決定する事になり相であります。そこで昔からの工場誘致法をあげますところとなります。

(工場誘致法は第二部第三章第三節を參照するものとして略)
こゝに最重要な事は之等のモトになる條件として

土地の氣風

誘致都市の條件

と云ふものが左右してゐる事が解ります。

土地の氣風について申せば餘り保守的な所ではどうしても此の運動が初まりません。

玉を抱いて罪ありで誰が見ても何とかかなり相なのに、何ともならない場合がよくあります。

小さな事にコダワツたり、ひがみ根性が多かつたり、町全體の事なんかどうでもいゝ自分の事しか考へない。

又何か少し進んだ考へを出すと鼻で笑つてしまふ。

こゝ云ふ精神が指導部にあつたらあしきいです。

先づ女房の不作同様或はそれ以上の意味で市民は氣の毒です。

それから、いくら市民がその氣でも工場を誘致す可き土地がない事がある。

例へば甲町は資力大きく工場誘致でも何でもし度い。

然し昔から町村併合をやらないので土地は寸尺も餘つてない。

然るに、それに隣接した乙村は驛にも接して居り、土地はあるのだが誘致する資力はない。

こゝふした場合仲よく提携すれば片がつくのですが、お互に一殊に乙村の方に何だいと云ふ氣があつて一歩も進めない。

こゝふした例は實に日本中に多いのです。

厭やな例で決して興國調ではありません。

此れで動きがとれない場合は官廳なり何なりの獻身的な斡旋が必要です。

或は前申した精神上の缺陷の場合も官廳側の斡旋で或程度ゆけるかも知れません。

此の邊の美しい例は群馬縣の太田で、太田の人達の骨折りで彼處の出身者中島知久平氏が大了した、特別の立地條件なきにかゝはず太田に工場をたてる事になりました。

そこで近隣の町村が合併して大きな都市を造つて、此れを迎へる事になりました。

人口五〇萬位の都市は造れると意氣込んで居ります。
まあ、一つの美談でありませう。

三、都市計畫

工場誘致の場合都市計畫は何をすればいいか。
之れは恐らく次の様なものでせう。

工業地域、出來れば工業専用地區の設定

交通中心を利用し得る様道路及運河の計畫

工業用水及排水路計畫

労働者の爲の慰樂施設

區劃整理

就中、區劃整理は最重要で之れによつて工場誘致地も出せば（例、名古屋市に多し）道水路も實現出來るのだから之は最大切です。

又、工業専用地區としたのは工場適地を他の目的のものに亂用され工場の來られなくなるのを押へる爲です。

第四節 都市美計畫

生産計畫によつて消費的な計畫に入ります。

此の消費計畫程日本でないがしろにされてるものはないのでありますが、私をして云はしむれば之れ程その都市の爲にも國家の爲にも重要なものはないと思ひます。

國家の爲には人的資源の培養環境として、都市の山紫水明性を回復す可き事は最近漸く唱へられ初めました。

之れについて否やはありませんと思ひます。

都市の爲——と云ふ意味は次の様になります。

先づこゝに一つの生産都市があると致します。

之れが非常に強力で生産率に於て人口一人當七〇〇圓乃至、一、〇〇〇圓位になつたとします。そうすると不思議な事に此の都市の消費力が下つて來る。

地價は下る。商品は賣れてもロクナものが賣れない。

そして此の都市がこんな風に不思議な貧乏をしてゐる時に此の都市の二〇—三〇軒のところ

にある縣廳所在地見たいなところが頓に商店が賑になる。

金が入る。

之れはどうした譯かと云ふと、その生産都市は生産一途で都市美をかへり見るいとまがなかつた爲消費的な環境が破壊されてしまつたのです。

早く云へば働くところではあるが金を使ふところでなくなつてしまつた。

之は生産都市自體としては實にくだらな話で、之は何とかして生産消費兩建て行かなければならぬ。

その爲には強力に此の都市美計畫を浴せかけなければなりません。

先づ都市美計畫で不快な汚れを一掃する。

そしてその上にその都市美保證區域の眞中に消費の精神を確立させる必要がある。

又此の場合此の生産都市のシテ役にあたつてゐる(従つて少々賢い所の)「消費一方の都市」としては工業都市たる相手が仲々都市美的に回復出来ないところがつけ目せう。

自市としては施設維持に必要な程度の精々二〇〇—三〇〇圓一人當りの生産力に止めて置く。

そして専ら都市美に集中隣接工業地帯の成果を吸収する。

人の悪いやり方だが、最も賢いやり方でもあります。

こふ申すと何か私が好んで都市同志のけんくわを望んで居る様であります。が之れは物の申し様でありまして、國家としてはあらゆる都市が生産消費相侵さずバランスしてゐる時が最好いのであります。

それから都市美が別莊地、觀光地、保養地等の利用價值を高める爲に必要至極である事は問題あります。

まあ、それやこれやで此は一見頗る重要なのであります。

都市美計畫を大別すると次の様になります。

都市整備

都市美装

都市造型

慰樂綠地の配置

都市整備と云ふのは餘り大げさなものでなく都市の亂雜さを整理する程度のもので、都市美

裝は都市の公園化、都市造型はそれから進んで都市に美的中心を造る事です。

一、都市整備

特に日本の都市の中で何とかしなければならぬものは

空中及公水面の淨化

建築及廣告の整理

路上構作物の整理

空中及水面の淨化の中空淨化は大都市の場合丈ですから省きまして公水面の淨化ですが都市には特に静水面の汚れた場合が多い。

此れを清くする爲には

淨化水の注入

汚物投棄の嚴禁

上流に工業污水多き工場を設けぬ事

と云つた様な配意が要ります。

河川に工業用水や下水を流入せしめる必要があるなら、それはせめてその都市を出た下流の

所でやつて貰ひ度いものです。

又特に工業地域の撰み方は此の際重要な事で決して之を都市の上流等にもつて行つてはいけません。

(盛岡の北上川が上流の鑛毒で汚れたり、高知の市中の流れが上流の工場の爲に汚かきを極めて居るの等絶對に問題です)

次が建築及廣告の整理ですが、建築は兎も角として日本の都市が廣告で屑籠同様に汚されてる状態は困つたものです。

之は美觀地區を造つて建築の取り締りをやると同時に廣告も整理して廣告場所を決定するなり、廣告塔をこしらへて、そこへまとめるなりしなければなりません。

上海で廣告ランドと云ふのを見ましたが、半月形の芝生に沿ふて廣告を配置した美事なものでした。

日本では眺めで一番大切なところへ廣告をやる事になつてゐる。利益の爲に公益をかへり見ざる不埒至極な神經です。

第三が路上構作物ですが之れに

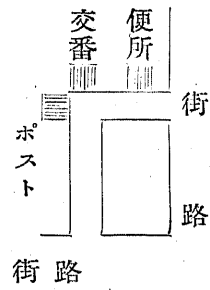
電柱、交番、ポスト、便所等ゴミ箱、自轉車等問題があります。

電柱は地下へ埋設す可きものなのですが、それでは餘りお金がかゝつてお話になりません。私の案では各道路に併行して路次を通します。

此の路次に「電柱を通し」「ゴミ箱を置き」「自轉車を置き」ます。

アメリカの例では此の路次に必要に應じ小廣場を造り、そこで荷造り何んかをさせます。うまい考へです。

交番、ポスト、便所等についてはやり場がありません。



私は此は街路の重要交叉點に直角の路次を造り、それに入るか、或はそう云ふところへ横斷地下歩道を造りその中央に地下廣場を設けその中に入れたらと考へてます。

此の地下廣場は有時の際の防空壕にし様と云ふ譯です。

二、都市美裝

之れはいはゞ都市の公園化であります。此のやり方は

水邊美裝
街路美裝

等に分かれませう。

水邊美裝は云ふ迄もなく水邊の美裝ですが、都市に於て此の水邊程魅力のあるところはあります。

所が概ねどこでも之は一向水を利用し相もない連中が物を干したり汚物を投げ込む丈にしか使つて居ません。

私は特に都市の中心部の河川湖沼の周圍は必ず太い道路で縁取り度いと思ひます。都市の中心部許りではない、市民が逍遙する事の出來るところは皆そうし度い。

即水邊に沿つて少くも三―四米の植栽地帯を取る。

その外が歩道で二米位、それから又植栽で之れが又三―四米、その外車道及歩道、家となる譯です。

そして所々に小さな足溜りになる様な小公園を設ける。

又、こゝ云ふ河畔、湖畔は夜の利用も多いから初めから適當な照明を計畫しとかなくては

けません。

又、街燈が街樹にかくれない様に氣をつけ出来たら緑を益々緑にする爲水銀燈等と云ふのを用ひるのも好いでせう。

街路の美装としては、街路樹が問題になりますが私はそれより一步進んで適當な廣場、廣小路を所々に設けて街路に變化を與へて貫ひ度いと思ひます。

殊に廣場は大變な値打ちで私は日本でも此れに、小さな藝術的な調刻を置く日がある事を祈つて居ります。

外國の都市の美しさは建築の美しさ、も一つは此の廣場の美しさです。

それも百坪ソッコの廣場に芝生が眞青になつて居り、それに可愛い、お伽噺の彫刻が置いてあるの等エも云はれません。

水邊街路を通じてどの場でも大切なのは道路や水邊を美しくかざるのみならず、そうした場所の建築を考へる事で、水邊なら水邊の曲り角、道路なら道路の正面突き當り等に來た建築は、意匠に注意して貫はなければなりません。

又そうした場所には出来る丈け公館の顔を出す事です。

三、都市造型

次に都市造型ですが、之は都市造型だ等と云ふムツかしい文句を使ふと解りにくい。解り易く申せば都市を都市美的に組み立てる事です。

やる事をならべれば直ぐ納得が參ります。

都心構成

文教中心構成

住宅地構成

工場遮斷構成

都市美街構成

丘陵計畫

先づ都心と云つてその都市の中心を造ります。

公館の集合地の中心に廣場を造り、各公館も美しい建築にしその前庭は美しい庭園にする。

その前庭は往來から出来る丈眺められる様にする。

日本には之は少ないのですが臺灣の各都市のは實によく出来て居ました。

之れが、あるないで町の品位は丸で違ひます。

次に今度は神社や學校の周圍をせめて五〇米以上の幅の綠地帯で包み又神社や學校の正面に美しい取りつけ道路をつけます。

之れも殖民地の神社では立派にやつてました。

京城の朝鮮神宮や臺北の臺灣神社等好い例です。

私は此の綠で取りまく手は市中のあらゆる神社や學校でもやつてゆき度いと思つてます。

續いて今度は住宅地の美化で之は大邸宅のある所も工場住宅地も同じ事で美化してなくてはなりません。

どうも日本の住宅地は大邸宅のある所は石堀許りだし工場住宅はキリギリスのカゴ許りだし話になりません。

家には充分の空がある様に垣根は出来る丈ない様に。

家々は必ず道路から相當空地を置いて建つて居る様に。

家の集團の中心には廣場がある様に、その廣場は美しい廣場である様に。

そんな風に我々は希望して居ます。

又その云ふ一團の住宅地を通過交通が通る事も絶対にさげなければなりません。

出来る丈安靜にす可きです。

工場地は工場地で又綠化して置く必要がありますが(各工場の中に充分綠地を探る)。何にしてもそう云ふ工場地帯と一般の他の地帯とは何か太い綠地帯で遮断しなければなりません。

外國の或都市では(田園都市レッチオース)その爲に初めから工場地と住宅地の間にゆるい丘陵地がもれ上つて互に視野に入らない様に考へて居る所があります。

又獨逸ではその綠地帯に畑を用ひてる所もあります。(フランクフルト、アム、マイン)

都市美街構成は町全體を都市美的な大道路で大きく組み立てるのです。

そう云ふ目的の爲にはその町で一番大きな幹線を使ふ。

それはドウしても五〇米以上のものでなくてはなりません。

それをさき程の都心から十字乃至星形に放射させます。

そして都市の周圍に同様の幅の幹線を丸くめぐらす。(維納のリング、巴里のブルバード)

即放射型構成をやるのです。

まあこんな事をやつた末に若しその町を見おろす事の出来る臺地があつたらそれを必ず公園

にし美化しとく。

之は高臺から都市を眺めせしめる事は市民精神涵養の意味から云つて大切であり又最都市を美しく眺め得る方法だからであります。

ざつとこんなことで都市美の最重要な都市造型が出来上るわけであります。

之れで名勝舊蹟があれば夫々緑で包み之れを此の都市美の組み立ての中に結びつけるので

四、慰樂緑地の配置

以上の様に都市美構成をすると

住み心地を増し

散歩價値を増し

觀光價値を増す

等種々ないみで消費價値を完備するワケであります。が此の外にどうしても

鑑賞用の公園

運動用の公園

娛樂用の公園

と云つたものが必要であります。

鑑賞用の公園は眺る一方のものですが舊蹟や、城跡等是非公園として置かなければなりません。

之は觀光價値から云つて重要至極です。

運動公園はその支配する「地方」の青年や何かを吸収する働きをします。

娛樂公園は動物園等のある公園で之も必要です。

私は將來スポーツランドの様な東京の郊外にある玉川園とか何とか云ふ様な大人も子供も樂天地が發達するのではないかと思つてます。

どうもそう云ふものが一つないと觀光地としても足だまりがつかないでいけません。(その點觀光地に温泉のある事は一應それ丈で足溜りになるからありが度い條件です)

それから公園計畫全部についてドウも日本の公園はゴロリとコロがつて休ませて貰へるところがありません。

ベンチではどうも、ユツタリしない。

公園の中には是非そう云ふところがほしいと思ひます。

又娛樂用と云へば水面があつたら必ず船が浮べられる事も楽しむを増します。

船のない水面は何となく淋しい。

そんな事も考へていただき度う。

五、都市計畫

都市美計畫は殆ど全部が都市計畫ですから取り立て、都市計畫は此れ此れと申す事はありません。

住居専用地區

美觀地區

風致地區

廣場計畫

街路計畫

公園計畫

等と云ふ事になりませう。

風致地區は仲々便利な法律で美觀道路の沿道等之れで押へるといつ迄も美しい風致が得られる事になります。

第五節 盛り場計畫

消費計畫の「上り」は盛り場の計畫であります。

「銀座」及「淺草」の建設であります。

之は私の都市哲學から申せば國家的に重要至極なものでありますが、まあそうした悠遠な説明は此の際はぶきませう。

たゞちよそ一つの都市として何はともあれ之のシツカリしたものを有つ事は都市經營の上から云つて抜きさしならぬ重要事だと云ふ事に御氣づき願へばいいのです。

さつき申した様生産都市としていくら働いても、ソノ働いた金がヨソの都市で消費されたりいくら住み好い住宅地になり都市美的に模範的なものが出來上つても、結局市民が其の都市で何にも買はないものなら變な話です。

逆に又其の都市が一向生産的に活動しなくても周圍の都市からドンドン金を使ひに來ればそ

れでも好いぢやないかと云ふ事になる。

まあ種々な意味で之は重要な仕事であります。

それから又此の金を費ふ「商店」も必ずしも「銀座」「淺草」の形式でなくても好いぢやないか。

商店さへあればそれで好いぢやないかと云ふ様な事も云つて云へない事もないではありませんが、一つは私の都市哲學から云つて「銀座」「淺草」の形式が欲しいし現代人は又そう云ふとここで物を買ふのが好きであるし事實論理的に云つても商業と云ふものはあゝ云ふものに集約されてゆきつゝある現状です。

大なり小なりあゝした形式になる可きものでせう。

一、盛り場の基礎計畫

1. 盛り場の數

さて然らば盛り場を造るとしてそう云ふものは一つの都市に幾つ位あるのかと云ふ様な話になります。

之も理屈ぬきに簡単に申せば大體之は相當小さな人口の時代からあり得るのですが誰にも満

足を與へ得る様になるのは人口一〇萬位の時です。

地價で云へば三〇〇圓以上五〇〇圓位。

交通量は夜の八時から九時位迄の間で一〇〇〇人位流れる。——と云ふ町が非常に賑か歩いてる人達も頗る樂し相である。

こう云ふのが街の長さで一籽位。そしてそれが中心距離で二籽置位に一つづゝ出る。

その一つの盛り場を中心に一籽の圓を描いて見ると丁度所屬人口が五萬乃至一〇萬位になります。つまり人口一〇萬に一つとなるわけです。

2. 盛り場の形

此の盛り場の道路の方向や幅は種々で方向は決つて居ないと云ふ方が本當の様です。

道路の幅は出て來る人の量に對し狭からず廣からず自動車の通らない路なら四—六間幅。歩車道のある時は歩道三間以上。そんなところが現實に成功してる様です。

盛り場になる爲に大切な事はその街が片側町にならない事。

堀が出たり工場が塀を出したり神社の土塀に顔を出されたり宿屋が占領したりする事は困る。

空地や銀行も禁物です。

又盛り場の中を車が通り抜ける事も絶対禁物です。

之は副道か何かをこしらへて通り抜ける車は或時間はソチラへ流せる様にしなくてはなりません。

又是非こうあると有難いと思ふ事は盛り場の大切なところに廣場がある事で(宇都宮の馬場、松本のナワテ)之は建築線の後退で、廣小路の様な感じを出すのでも一向かまいません。

私は今名古屋の大須の盛り場計畫の相談をしますがあそこではアーケードで建築線の後退させ廣小路の感じを出しました。

さてこんなお話では未だ何だか盛り場の形が眼に浮ばないでせう。

そこでもつと具體的に申すと盛り場には種々ある。

市場商店街

都市美商店街

商店街盛り場

感興盛り場

綜合盛り場

此の中商店街盛り場迄は直線式で之は人口二〇萬位迄は此の形です。

之れが感興盛り場即淺草になると集團的な形をとる。

之は一つの都市がその發達過程で「銀座」と「淺草」を別に造る様になつた場合でこの「淺草」的なものが獨立してヒョッコリ生れる事はまあないと見て好いでせう。

綜合盛り場は「銀座」と「淺草」が組になつて出た場合、

之は人口五〇萬位からその中心盛り場として出ます。

此の綜合盛り場は大體『型』になつて居てソノ一方の脚が銀座になり一方の脚が淺草になるワケです。

今の廣場の問題は商店街盛り場と云ふ様な「銀座」の中に「淺草」的なものが芽生へて來て一寸した中心を見せ初めた様な時はソノ部分。

感興盛り場ならその集團の中心。

綜合盛り場ならソノ「淺草」部分の中心に欲しいのです。

そこの廣場が足溜りになり心理的に人を吸収し且人足をそこで停らせます。

サテ之で大體の粗つばい骨組みは出來ましたが實は此れ丈では未だ大切なかまへが抜けて居ります。

そのかまへのお話をする爲にはも一應盛り場の根本問題に戻らねばなりません。それは盛り場の覗ひは何であるかと云ふ問題です。

盛り場の根本的的目的は何であるか。

之は誰でも先ず問題なしに、第一に

平面デパートたらしむる事

と斷定なさり得る。

之は商人から云つても消費者から云つても「その通り」である。

然し私は私で盛り場の目的は此の他にもつと重大な事があると唱へてゐる。それは市民にとつて、

愉快な楽しい市民クラブになる事。

である。

私は特に此のアトの方の目的に重要性を認めて居るのです。

私のウルサイ盛り場哲學も實はこゝから出るのです。

此の平面デパートについては必要にして且充分な丈の店數を集め(數に於て約一五〇軒)それが皆信用のある好い店ならそれで問題終了であります。

然し「愉快な市民クラブ」たらしめるのはソウ簡單には參らない。

此の爲には今申上げた廣場がある事なんか非常に有効なのですがその他に大切な條件としては街の形が「包まれた感じ」になつて居らなければならぬ。

例へて云へば街路なら直線街路よりは丁字路『字路乃至曲線道路がよろしい。

廣場等でも道路がクシザシに通つてより廣場に對して喰ひ違ひに入つての方が廣場の包まれた感じが出ます。

此の包まれた感じになつて初めてその中に居る人にクラブらしい落ちついた感じを與へるのです。

3. 盛り場の誘導強化施設

以上の様な構が出來上つたところで今度はそれを商業的「市民」クラブに仕上る爲には

イ、朗なる市民の流れ

ロ、商品の鑑賞

ハ、都市美（特に夜の）

等が之れを肉づけしてくれなくてはなりません。

此の中、ロ、ハ、についてはあとで種々申上りますが、イ、は理論として盛り場自體もその發達するに従ひ吸引を初めるわけである事勿論であります。が盛り場が初め生れ出る爲又、例へそれが伸びてる最中でも之れを強化するものとして盛り場外の有力なシカケによりこうしたものが流して貰へれば、之れにこした事はありません。

此の「朗な市民の流れ」をこしらへる仕掛け即、「人寄せ」の方法に二つあります。

一つは兎も角何でもかでも人を寄せる法。

例へば

停車場
市場
官公署
學校

と云つた様なものを設置する事等でありませぬ。

たゞこう云ふものもとになつて商店街が出来た例はありますが、こう云ふ「人寄せ」によつて寄せられた人はその氣持が、せわしいので盛り場に本當に向くとは云へませぬ。盛り場へ來る人間は初めから多少朗な平和な氣持であつてくれなると有難くない。そう云ふ便利な人寄せとしては

百貨店
劇場 映畫館
社 寺

等と云ふものがあります。

事實昔から社寺、劇場の前に盛場が出来易い事は皆様御承知のわけであります。こうして雪ダルマのシンが出来ますとそれを包んでそれからそれと盛り場が大きくなつて參るのであります。

4. 街力測定

さて、以上の様な基礎計畫について、整備に入るわけですがこんな基礎計畫をいついかな

る所でもやれると云ふわけのものでありません。

街の希望その殷賑過程等に應じてやらなければならぬ。

そこでそのやれる程度をさめる爲に街の力を測定する必要があります。

これにも私の使つてゐる標準があります。

先づ地價で一、〇〇〇圓以上する所ならそれは日本的で觀光價値のあるところです。

「綜合盛り場」位に當然なつて居る所ですし又して好い所です。

地價三〇〇圓位が又一區切りで此の位から以上ですと、大分市内でも遠い方から人が来る盛り場で五―六〇〇圓になればそれが地方的な中心になつて居り三〇〇圓代だとその町の中の各方面から人が来る様な場所です。

五―六〇〇圓級は「商店街盛り場」らしい整備の出来る時ですし三〇〇圓代は「都市美商店街」で街を美しくする位がせいぜいです。

一〇〇圓級はやつと商店街が出来上つた時代で此れ以下では街になつてません。

だから一〇〇圓以上する所なら可成り思ひ切つた基礎的な根本計畫をやつて然る可きですし、三〇〇圓から五―六〇〇圓なら次に申す整備時代。(五―六〇〇圓は中間かも知れない)一

〇〇圓でしたら極めて金のかゝらない方法しかやれません。

此の街の力を交通量でも大體測れます。

之は夜の人の一番出る時間例へば八時から九時位迄の一時間の交通量で計る。(年の最平均した時)。

それが一〇、〇〇〇人以上でしたら一、〇〇〇圓級五―六〇〇人以上でしたら五―六〇〇圓級、二三、〇〇〇人だつたら三〇〇圓級一、〇〇〇人以下だつたら一〇〇圓乃至以下と見當がつきます。

之は極大體ですがそんな風である様です。

何にしても、こんな風に街力を測定してそれから程度を考へなければいけません。

二、盛り場の整備

以上基礎計畫で御話した事は大體に於て御他力で強力な市なり縣なりの力によるのでなければ出来ない事許りでしたがこんど申上げるゝ話はそうやつて出来上つた町内の整備ですから出来易い事許りです。

尤、さればと云つて之れも

商業組合

地主家主組合

と云つた様な強力な組合が出来て居なければ實際は出来ません。

そう云ふ準備があつての事と考へなければならぬ。

又同じ整備でも程度がありそれをさめるのも街力です。

街力によつて三〇〇圓以上してゐる場合なら中計畫それ以下なら小計畫で止めなければなりません。

一、〇〇〇圓以上なら大計畫となります。(新設の場合は勿論大計畫)

大計畫

大計畫は一、〇〇〇圓級は勿論六〇〇圓級の中の旺盛なものでもやる可き規模です。之等は
いづれも基礎計畫についても勿論ふれてゆかなければなりません。六〇〇圓級の商店街盛り
場では主として、

商店街に商店をそろへる。

それも「信用のある店」「慰樂關係の商品を賣る店」「文化品を賣る店」と云つた様なものを

そろへなければならぬ。

それから進んでは

既存の暗い建物を處理する事

知名な健全な喫茶店を招致する事

町の餘興場を設ける事(空地等)

映畫館等の娛樂館を集める事

と云ふ様な事が爲されなければなりません。

又若しそれが綜合盛り場なら商店街と觀興街を完全に分離獨立せしめる。

尤それは「形に組み立つて居なければなりません」。

そうした工作が第一次に必要となります。

之れはどうしても商業組合が地主家主の組合と聯結するのでなければ成功しません。

仲々の大事業です。

中計畫

之は簡單に町内の裝飾で賑かにする丈の事で三〇〇圓級以上の街でやる事です。その大要を

のべると次の様になります。

イ、彩圍ひ灯圍ひ

之は街の周圍を賑かにする。

その爲に最大切なのは街のツキ當りです。これは晝なら看板とか幕とか建築とかでかざる。夜は店の灯、看板、廣告塔等で明るくしとかなければなりません。

ついでに街の兩側。

之は街灯、看板、陽蓋ひ、等で賑かにする。

街灯はこうした非常時ですから鈴蘭やネオンは許されません。

せいぜい往來安全灯ですが、たゞ折角つけるなら能率のある様にして貰ひ度い。

即、折角つけた街灯が街路樹や電柱のカゲになつたり陽蓋ひや、旗にかくされていたのでは何にもなりません。

又街灯の中にゴミがたまつてたりホヤのかけたのをかけつ放しにしとく等と云ふのも下らぬ事です。

私は今後益々電力が不足になるのですから街の明るさを電力許りでなく建物の形や壁の色で

明るくし度いものだと思つてます。

例へば形で云へば西洋建築が反射がきくし色としては黒よりは白がいゝ。

それで私は共同建築にして明色で塗る事をあすゝめしてます。

若し西洋建築が出来なかつたら看板をそろへて、それでヒサシをかくすのもいゝ。

何かそう云ふ工夫が要ります。

看板は此は店の爲に必要なきまつてますが、之れをネオンや何かでなく小型の四角なガラスの安灯にして軒から出したらどうかと思ひます。

そのガラスの色をトキ色とか黄とかにする。

そして店名を色文字で書くとか店の品物を繪で畫く。

一寸町が面白くなります。

ひるまの彩圍ひできゝめがあるのは陽蓋ひです。

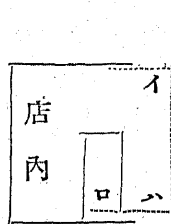
之れは若し新調するのだつたら色陽蓋ひにす可きです。黄青、紅白等町中でそろへたら可成りキレイです。とも角汚れたまゝに汚ないのをかけておくのは御断りです。(東京人形町、巢鴨等)

それから盛り場の彩圍ひ灯がこひの爲には店がまへも大切です。

それは店のかざりを遠くの方から歩く人に見へる様にする。

例へばイ、ロ、ハと云ふ様なところに特に賑かなものをかざり之れに灯を投光する。

往來



圖面平舗店

ショウキンドの口のとこ等願る大切なところです。

こうすると町を歩くものは歩きながら町の商品が皆見へ、町が明るく感ぜられます。

ロ、街 調

そこで大體町の明るさ賑かさが出来たら今度は町の情調、面白み

を出す。

それは

時局調

季節調

と云ふ様に大別されますがその手段方法は大體ショウキンドを使ふ事になります。

即、時局調としてはショウキンドは出来る丈精動的なものにする。

精動的なポスター標語を厭味なく効果のある様に使ふ。

又時のニュース等で重要なものは月番のショウキンドに掲げる。

時々代用品の陳列會をやる。

慰問袋用品をならべる。——と云つた様な事をする。

季節調は、ショウキンドで季節を出す。

勿論それは商品でも出ますが私は成丈それを緑りのものであつて貰ひ度いと思ふ。

夏なら朝顔、秋なら菊と云つた様な季節の感じの強いものをウインドに使ふ。

それも出来たら奥さんなりお嬢さんの自慢の活花なんかだつたら面白いと思ふ。

そう云ふ緑りはどれ丈市民の硬い心を柔らかく人間らしくするか解りませんし又その町の魅力を増すか斯りません。

それから之は時局や季節とは關係ありませんが盛り場の爲に必要な情調として

店員精神

が大切な事も見のがせないと思ひます。

ツツケンドンな店員や愛嬌のない店員が一人居ても街の気分はメチャクチャです。

之はどうしてもやらしい親切な店員許りである必要があります。

私はよく

今日のお客に明日賣る心

よそのお店で賣る心

之れが一番大切な店員精神だと云つとりります。

今日來たお客に其の場で無理に賣る氣にならない様。いわゆる「素見自由」の氣持でなければならぬ。

又、家に品物がなければ同業の他の店へ案内する。(鹿児島で其の例に會いました)。

此の氣持もうれしい。

デパートに客が魅かれるのも此の「素見自由」なのだから氣をつけていたゞき度い。それから

昨日のお客に眼で御禮

もなす可き事です。

ヒドイ店員になると今サツキ賣つたお客にさへ鼻も引つかけない。

昨日のお客が通つたら「昨日はどをも」と口に出さなくても眼で御禮が云つて貰ひ度い。(之れはデパートで出來ない事)。

ハ、催 事

まあこんなところで整備の大部はあわりませんが但しそれ丈では未だ迫力が出來ません。

此の外に季節の種々な催事が必要です。

夏場の相撲等其の最たるものですが私は土曜日曜の夜の夜店で青物を賣つたり、するのを見ますがあれもいゝ事です。(高知にその有名ながあります。)

又社寺の縁日なんかも變な日にしないで皆土曜日曜にしたらどうかと思ひます。

何にしても市民は特に土曜日曜の夜退屈してはなりません。そしてそれは自然市民として、「我等の街」の氣分にあらせませす。

小 計 畫

以上が中計畫。

小計畫と云ふのは大盛り場でも沈滞期にある場合小盛り場ならこれからと云ふ時代にやる可

さき話で今申した様な事の中、金をかけないで出来る事丈やる——と云ふ手なのです。以上ゴタゴタしたから表にしませう。

盛り場等級	盛り場種類	計畫規模
一、〇〇〇圓級	綜合盛り場	上昇期 沈滞期
六〇〇圓級	商店街盛り場	大計畫甲 中計畫甲
三〇〇圓級	都市美商店街	中計畫乙 小計畫乙
一〇〇圓級	市場商店街	小計畫乙

甲 基礎計畫
乙 整備計畫

三、店舗及飾窓

サテ盛り場が出来たとこで今度は店と飾窓ですが、簡単に一二の注意を申上ませう。

店舗

こゝでも私は店内の彩圍ひ灯圍ひを強調します。

即ち店の正面は必ず彩り美しく且灯を強くかけて置いて、いたゞき度々。

場合によつては店の正面にシヨウキンドをこしらへてる店もあります。

それ迄にする事もどうかと思ひますが明るい必要はある。

又此の灯りも必ずしも電氣の灯である必要はありません。

晝間は出来る丈天窓を利用して太陽の光線をあてゝいたゞき度々。

晝間は其の方が感じがいい。(心齋橋筋に多い)

それから店の中間にマヤマに品物をさげるのは店内をインキにします。

之は矢張り往來から正面ツキ當りが見へる構へが一番好いと思ふ。

それから大切なのは明るさの調子ですが之はあく迄店内しかも正面が一番明るくシヨウキンドが之に次ぐと云ふ形がいい。

此の爲にはシヨウキンドのバックは光りを吸収する様なものにする事。

及店内正面に投光照明をあてる事です。

それから又店内の照度を高める爲には

裸電氣は止めて反射笠をかける

グローブは外して反射笠にする

天井や壁は光りを反射させる様な明色で塗る。

陳列に凹凸の少ない様にする

と云つた様な注意が大切です。

此の裸電氣の效果に關する迷信愚信は日本的です。

此の爲にお客はマブシクなり店内が見へずしかも灯りが要らないところへ亂射されてるから結局暗くなつてゐる事に氣がつかない。

困つたものです。

此こにあげた注意を守れば恐らく照度は倍以上になりませう。

飾 窓

シヨウキンドでも

裸 電 氣

灯具の見へる事

お斷り勿論です。又

灯りが商品全般にかゝらぬ事

暗すぎる事

皆いけなす。(田舎へゆく程必ずウインドが捨ててある)

それからシヨウキンドで一寸した注意で面白るのは

正札の形と色をキレイにそろへる。

事です。

大きな荷札の様な白い正札や呉服に靴へつける様な正札を貼るのは困つた無神経です。

四、盛り場建設に必要な都市計畫

かくして盛り場建設に必要な都市計畫は次の様なものであらう。

街 路 網 (特に副道)

地 域 制 (商業地域)

區 劃 整 理

小公園計畫

結 語

以上で都市振興策の大體の解説をおへました。

尤、之れは土地により都市により種々加減しなければなりません。

そう云ふ事は土地の方の考へ可き事です。

そして私は若し氣宇の大きな人があつて都市の振興は都市丈いちぢつていた所で仕方がない。

その地方の都市農村を綜合して振興させその一因子として發展させて初めて、百年の大計になるのだと云ふなら、それこそ國土計畫的な立派な考へだと手を揚げざるを得ません。

新しき黍明に當つて、賢く機會を御つかみになり子孫の爲にゆたかな郷土を御建設ならん事を祈ります。

(尙、此の他消極的都市振興讀本としては

交通整備をする事

防火帯を設け、燃へない町にする事

等がありますが要點が稀薄になるゝそれでハブキました。)